

2021年度大学改革シンポジウム開催のご挨拶

「地域と国の発展を支え、世界をリードする国立大学！！」



一般社団法人 国立大学協会
会長 永田 恭介(筑波大学長)

2021年度大学改革シンポジウムの開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

日本の国立大学は、2004年度の法人化以来、優れた教育や特色ある研究を行うなど個性豊かで魅力ある大学になるよう各大学が工夫を凝らし、成果を上げてまいりました。そして、経済基盤や社会構造の激変に直面するコロナ新時代においても、国立大学は個々に、また総体として有する多様な学術知や、これまでの「知の資産」を結集し提供することで、SDGsの実現、グリーン・リカバリー、カーボンニュートラルの推進をはじめとする地球規模の課題の解決、災害や感染症等に対応する高度にレジリエントで持続可能な社会の構築への貢献、そして地域で活躍する人材の育成や新たな産業創出などの地方創生の中核としての役割を担います。

「大学改革シンポジウム」は、その一つとして、国立大学協会が2008年度から経費や広報の一部を支援し共催しているもので、国立大学が学内の改革状況を市民の皆さまに公開し諸活動をご紹介して、国立大学の役割の重要性や存在意義についてご理解いただくために開催するものです。国立大学は、こうした機会にその地域の方々からのご意見を受け止め、皆様方のご期待に応える大学を目指し一層努力してまいります。

なお、当協会は2010年度から「国立大学フェスタ」と銘打ち、10月～11月の2か月間に各国立大学が地域と連携しながら実施するシンポジウムやオープンキャンパス、公開講座、市民講座などの様々な活動を集中的に皆様方に紹介しております。「大学改革シンポジウム」もこの「国立大学フェスタ」の一環で、こうした活動を展開することにより、国立大学の今を、地域、社会、産業界等、広く国民の皆様にご理解いただけるよう努めてまいります。

本日の大学改革シンポジウムは、開催大学のご尽力により魅力ある内容となりました。本シンポジウムに参加された皆様にとって意義あるものとなりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。